

国際園芸アカデミーの3つの方針

本学の基本理念「花と緑の空間づくりによる健康で心豊かな生活の創造」に基づく充実した教育活動を展開することにより、生涯学び続け、主体的に考える力を持ち、未来を切り拓いていく人材を育成するため、3つの方針を定めます。

卒業の認定に関する方針
(ディプロマ・ポリシー)

国際園芸アカデミーは、次の資質・能力を身に付けた学生に対して卒業を認定し、「専門士(園芸系専門課程)」の称号を授与します。

- ① 幅広い教養を身に付け広い視野に立ち、物事に対して公正な判断をすることができる。
- ② 幅広い専門的知識と創造的な技能、優れた経営感覚を身に付け、社会における諸問題の解消のためにその知識・技能を活用することができる。
- ③ 社会における課題探求と問題解決の能力を修得し、主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、ともに成長することができる。

教育課程の編成・実施に関する方針
(カリキュラム・ポリシー)

国際園芸アカデミーは、教育目標を達成し、称号授与方針に示す資質・能力を身に付けさせるため、次のような教育課程を編成し、実施します。

- ① 教育課程において、基礎教育科目、専門教育科目、応用教育科目、研究教育科目を段階的に学習できるよう体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を実施することにより専門分野の知識・技能を確実に修得し、問題解決のために活かすことができるようにする。
- ② 演習や実習科目を中心に能動的学習要素を取り入れることにより、生涯にわたって主体的に学び、他者との相互理解や意見交換ができるようにする。
- ③ 学修成果に対する厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、学習行動調査や国際的な評価制度(GPA)の導入、修得時間数に基づく個別指導を行うことにより、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。
- ④ 開講科目については、シラバスにより授業計画、学習到達目標、成績評価基準などを明確にし公表する。

入学者の受け入れに関する方針
(アドミッション・ポリシー)

国際園芸アカデミーは、高等学校等における学習を通じて、次のような資質・能力を身に付けている人を受け入れます。

- ① 専門学校での学修の基礎となる高等学校における各教科の基本事項を修得している。
- ② 学修成果を社会で活かすという目的意識がある。
- ③ 専門学校在学中だけでなく、卒業後も学び続ける意欲がある。
- ④ モラルがあり、基本的な態度や礼儀(言動や身だしなみなど)が身につけている。
- ⑤ 基本的な生活習慣(体調管理、時間管理など)が身につけている。
- ⑥ 他者を思いやり、協調性を重んじる人

国際園芸アカデミーの教育内容の充実に向けた課題と対応(案) (その1)

- ◆ 業界を取り巻く環境が激変する中、花と緑の産業に直結した教育の実践が必要
そのため、以下に取り組む

- 1 教育体制の充実
- 2 経営感覚に優れた人材の育成
- 3 社会性と職業意識を身につけた即戦力となる人材育成
- 4 園芸・緑化技術の習得及び向上
- 5 社会人教育・生涯学習の充実

1 教育体制の充実

課題

【教員の意識改革】

- ・業界を取り巻く情勢は大きく変わってきているのに、授業内容は変わっていない。教員の意識改革を行う必要がある
- ・教員は自分の専門の穴にこもっている。園芸アカデミーの教員であってよかったと思えるような改革提案を自らすべき

【企業との連携強化】

- ・卒業後の就農、就業対策が重要であり、就職先を見据えた教育が必要
- ・企業との連携を強化し、十分な就職先を確保することが魅力増進となる

対応

【教員の意識改革】

- 【新】教員の刺激となり、教育の質を高めるため、企業や岐阜大学教授等の多様な講師による授業を実施
- 【新】カリキュラム編成や授業方法を学ぶため、先進的な農学・造園系大学及び専門大学校への派遣研修を実施
- 【拡】企業研修を複数の企業で多角的に実施し、習得した最新技術等を授業に反映

【企業との連携強化】

- 【新】就職に直結する企業へのインターンシップ派遣に加え、現場の多様性を学ぶための視察機会を増大
- 【拡】教員による企業研修を通じた業界とのネットワーク構築を強化
- 【継】オンライン形式の企業説明会によるマッチングの機会を創出

国際園芸アカデミーの教育内容の充実に向けた課題と対応(案) (その2)

2 経営感覚に優れた人材の育成

課題

【経営手法の習得】

- ・生産の担い手、生花店、造園業いずれの職業もマーケティングやICT活用、経営分析能力は必須。利益が出なければ再投資はできない
- ・会社を設立したと想定し、仕入れから販売まで経営者として学ぶ必要がある。
- ・花業界の担い手育成は非常に厳しい。花を生産するだけでなく、新たな付加価値をつける必要がある。

【商品企画力の醸成】

- ・植物の物語や歴史などの知識を応用し、商品プロデュースできる教育が必要
- ・高齢者や障害者に対応した店作りや商品開発に役立つため、花の効果・効用を学ぶことが必要
- ・業界のトレンドに対応できるよう異業種を知ることが必要

対応

【経営手法の習得】

- 【新】 起業家や経営者の講義を新たに設け、起業・経営の多角的な学びの機会を創出
- 【拡】 会社設立を想定した起業・経営論を学ぶ、選択科目授業「起業・経営シミュレーション」を必修化

【商品企画力の醸成】

- 【拡】 市場に流通する商品の動向調査と、それをベースにした新商品の企画・生産、さらには販売プロモーション制作など、調査・企画・販売の3つの工程を下記授業で体系化し、商品プロデュース力を強化
 - 「商品動向リサーチ」
 - 「生産プロジェクト実習」
 - 「SNSプロモーション」

3 社会性と職業意識を身につけた即戦力となる人材の育成

課題

【社会に通用する人材の育成】

- ・自発的に考える主体性のある学生の育成が必要
- ・社会性と職業意識を身につけた人材の育成が必要
- ・お客さんの対応ができる社交性のある人材育成が必要
- ・グローバルな視点を持ち、情勢の変化についていける人材の育成が必要
- ・社会常識があってコミュニケーションをとることができる人材の育成が必要

対応

【社会に通用する人材の育成】

- 【拡】 花フェスタ記念公園実習フィールドに加え、直売所や実習棟等を活用した実践的な授業による能動的な学習
- 【新】 自治体との連携による公園整備への参画やイベントへの出展など、地域社会との繋がりを重視した新たな取組強化
- 【新】 ボランティアへの参画を通じた自立意識の醸成及びボランティア経験者への単位の付与
- 【継】 「キャリアデザイン」授業において、建設的なディスカッションを通じた協働や合意形成への意識醸成

国際園芸アカデミーの教育内容の充実に向けた課題と対応(案) (その3)

4 園芸・緑化技術の習得及び向上

課題

【担い手の技術力向上】

- ・担い手をいかに育成していくのかということが重要
- ・卒業制作に時間をかけるより、実践的な技術に関わる資格の取得など、実践技術の習熟度で評価する仕組みが必要

対応

【担い手の技術力向上】

- 【新】企業へのインターンシップに加え、コンソーシアム企業が受け手となり最新技術を習得する研修機会を創出
- 【拡】卒業制作の時間を減らし、生産プロジェクト実習、フラワーデザイン実習、造園施工・管理実習等の実践的な授業による能動的な学習を拡充
- 【継】国家資格等の取得に向けた授業の実施（造園施工管理技士、造園・フラワー装飾技能士、園芸福祉士など）

5 社会人教育・生涯学習の充実

課題

【社会人教育（企業向け講座）の充実】

- ・専門技術教育分野を展開するべき。
- ・社会性やコミュニケーション等幅広い教育には高校だけではなく社会人も対象とし多様な学生を受け入れるべき。

対応

【社会人教育（企業向け講座）の充実】

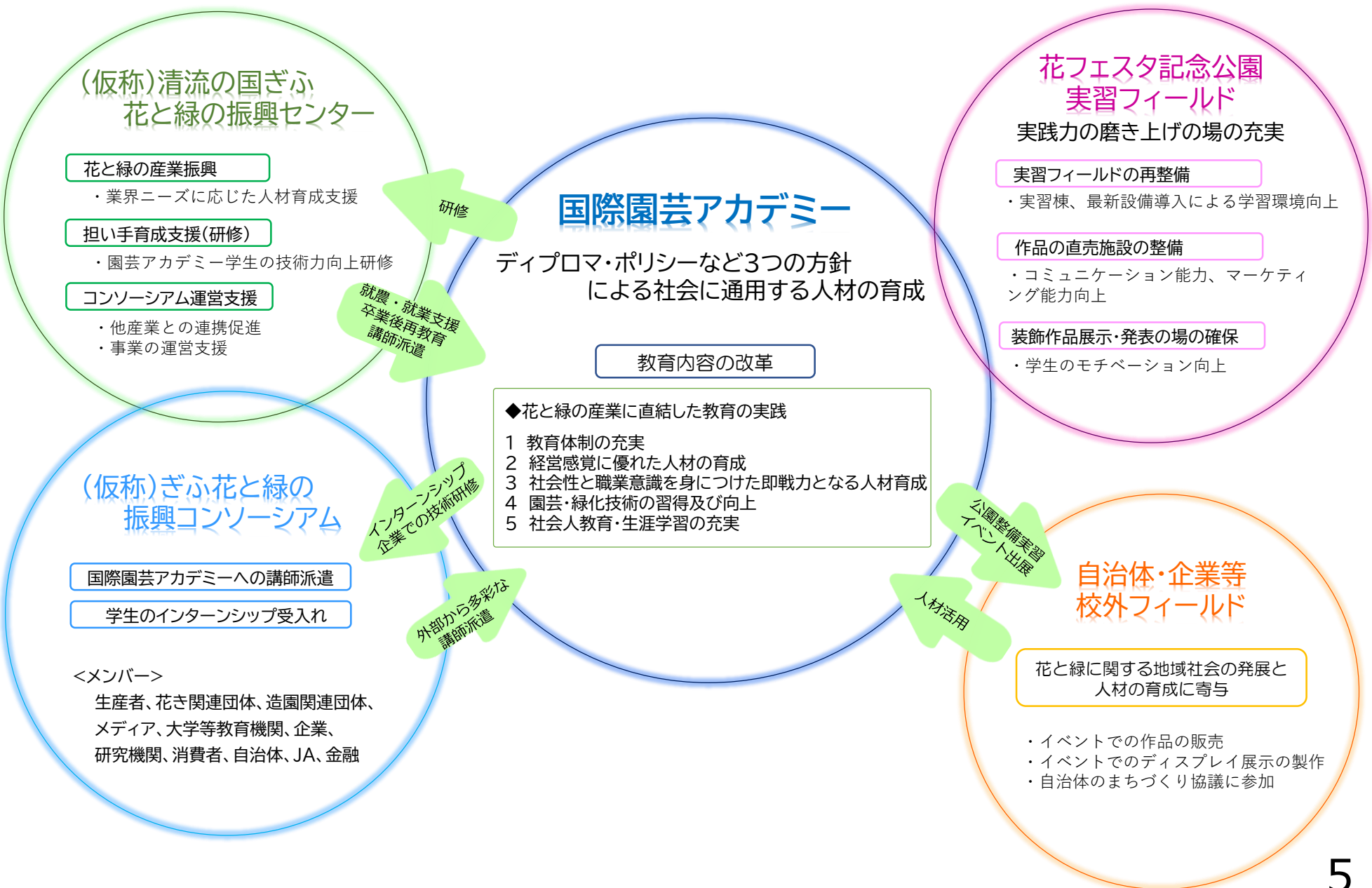
- 【新】「(仮称)清流の国ぎふ花と緑の推進センター」の担い手育成支援機関と「(仮称)ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」が連携し、卒業後の再教育を支援
- 【新】国家資格等の取得のための実習を、社会人を対象とした講座として新たに開催
- 【拡】公園管理、道路緑化、園芸福祉等に加え、フラワーマーケットトレンドや園芸色彩学等の講座を拡充
- 【拡】社会人の学び直しの場合としての科目等履修生及び研究生制度について、就職先企業やインターンシップ先への広報活動を展開

【生涯学習（一般人向け講座）の充実】

- ・園芸を楽しみたい、フラワーアレンジメントをやってみたい、庭木を剪定したいなどの一般人向けのニーズに応える講座を充実するべき

【生涯学習（一般人向け講座）の充実】

- 【新】市町村との連携・協力協定に基づく市民向け講座を開催
- 【拡】季節ごとに楽しめる植物の育て方講座や、親子・夫婦で楽しめる講座を拡充



(仮称)清流の国ぎふ 花と緑の振興センター

- 花と緑の産業振興**
 - ・ 業界ニーズに応じた人材育成支援
- 担い手育成支援(研修)**
 - ・ 園芸アカデミー学生の技術力向上研修
- コンソーシアム運営支援**
 - ・ 他産業との連携促進
 - ・ 事業の運営支援

研修

就農・就業支援
卒業後再教育
講師派遣

(仮称)ぎふ花と緑の 振興コンソーシアム

- 国際園芸アカデミーへの講師派遣
- 学生のインターンシップ受入れ

<メンバー>
生産者、花き関連団体、造園関連団体、
メディア、大学等教育機関、企業、
研究機関、消費者、自治体、JA、金融

インターンシップ
企業での技術研修

外部から多彩な
講師派遣

国際園芸アカデミー

ディプロマ・ポリシーなど3つの方針
による社会に通用する人材の育成

教育内容の改革

- ◆花と緑の産業に直結した教育の実践
- 1 教育体制の充実
- 2 経営感覚に優れた人材の育成
- 3 社会性と職業意識を身につけた即戦力となる人材育成
- 4 園芸・緑化技術の習得及び向上
- 5 社会人教育・生涯学習の充実

花フェスタ記念公園 実習フィールド

実践力の磨き上げの場の充実

- 実習フィールドの再整備**
 - ・ 実習棟、最新設備導入による学習環境向上
- 作品の直売施設の整備**
 - ・ コミュニケーション能力、マーケティング能力向上
- 装飾作品展示・発表の場の確保**
 - ・ 学生のモチベーション向上

公園整備実習
イベント出展

人材活用

自治体・企業等 校外フィールド

花と緑に関する地域社会の発展と
人材の育成に寄与

- ・ イベントでの作品の販売
- ・ イベントでのディスプレイ展示の製作
- ・ 自治体のまちづくり協議に参加